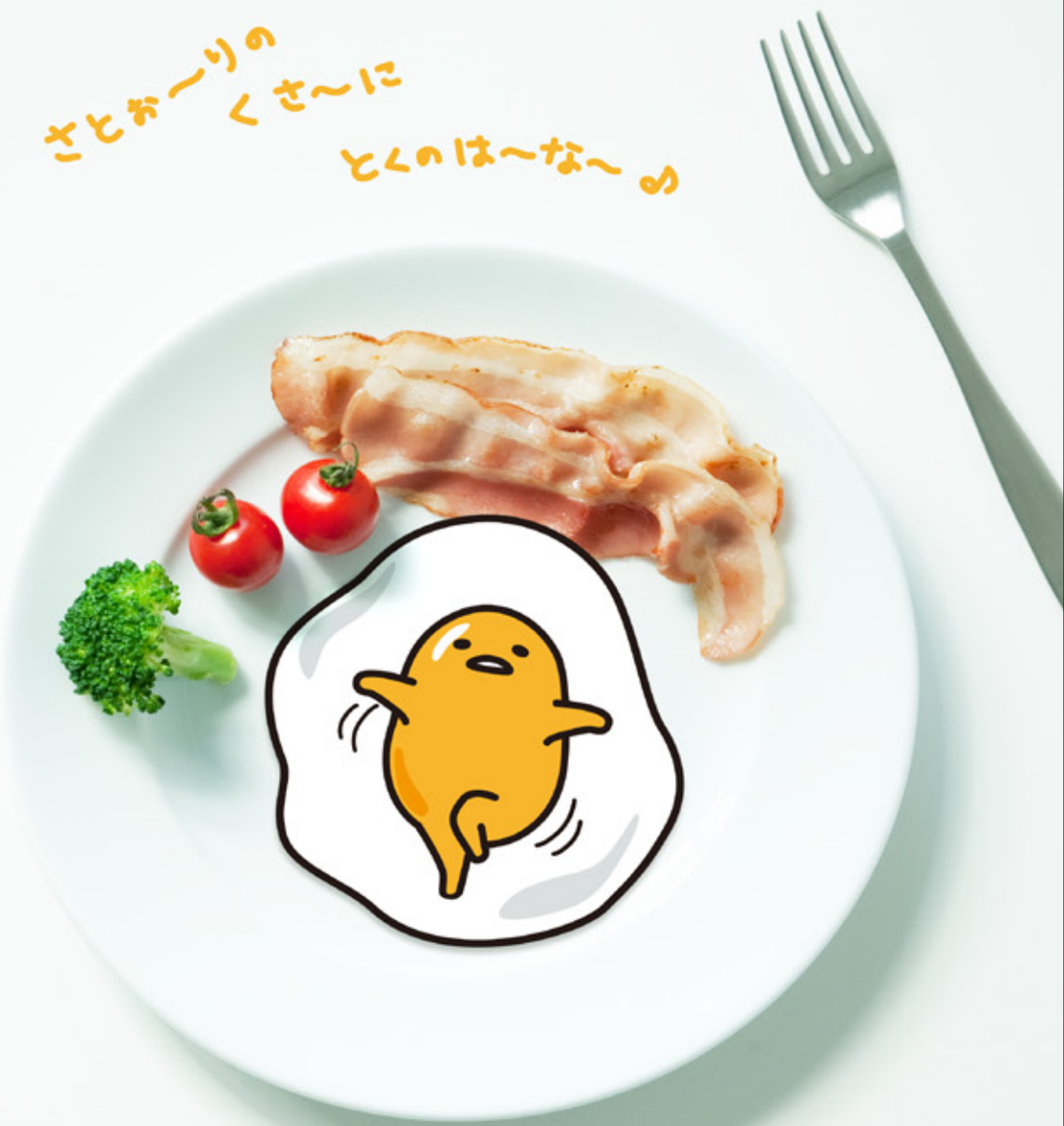
Amy

JOSHIBI no.179



私の100パーセントを、これからもずっと。

100パーセントで取り組まないことは恥ずかしい。そんな女子美での学びを今でも大切にするサンリオのキャラクターデザイナー、Amyさん。入社2年目にしてヒット作「ぐでたま」を世に送り出す快挙を成しとげたシンデレラガールの等身大に迫る。

Photo 中島宏樹　Text 立古和智

絵を描く以外に特技のなかった私が、キャラクターデザインに興味を持ったのは女子美の付属高校一年のときです。以前から巷の人気キャラを描いてはいたものの、あの年、私が応募したポケモンの指人形のポーズが商品化されたことが大きなきっかけとなりました。奇しくも女子美といえばハローキティを世界的なキャラへと育てた山口裕子さん、シナモロールの生みの親にして、現在の私の上司でもある奥村心雪さんの出身校です。知ってはいましたが、高校の頃はもとより、大学の時点でも、まさか自分がサンリオに進むとは夢にも思いませんでした。キャラクターデザイナーになることは総じて狭き門ですからね。それに同級生や卒業生のハイレベルな作品を目にして、自分の能力では無理だと思い込んでいたのです。だから大学に進学した時点ではキャラクターは好きでも、それを仕事にしようという固い決意はありませんでした。進学当時は、就職先のことはともかく、女子美でコマ撮りアニメーションの制作に打ち込もうと思っていたのです。

もうひとつ大学時代に打ち込んだものといえばサンリオピューロランドでのアルバイト。映像の撮影や編集をしたり、携帯コンテンツやポストカードをつくる裏方を4年間やりました。周りから「サンリオの入社試験を受けてみなよ」と薦められたのはあのバイトのおかげです。とはいえサンリオに入りたい人は同級生にも大勢いたし、あの時点でも夢はまだ夢のまま。なのに、いざエントリーしてみたら最も楽しく課題に取り組めた応募先はほかでもないサンリオで、唯一内定をくれた会社もサンリオ。そんな結果に驚きでした。私にとって、絵画でもイラストレーションでもなく、キャラクターを描くことの魅力は、今にも動きだしそうで、話しかけてきそうな存在感を生みだすこと。人気キャラの多くにはシルエットだけでそれとわかるほどのオリジナリティがあります。裏を返せばサンリオに入っただけで、自分の描いたキャラを世に出せるほど甘くはありません。私の代表作「ぐでたま」のデ

© 2013, 2014 SANRIO CO.,LTD.

ビューも、文字通りに奇跡でした。当時の私は、まだ入社2年目。食べ物をテーマにした社内コンペ「食べキャラ総選挙」でデザイナー60名以上と競いあって上位20名に残れた上に、一般投票でもまさかの二位。結果、世に出してもらえたことは、人生すべての運を使い切ったと言ってもいいほどの大事件でした。

あのキャラは、たまごかけご飯を食べていたときに「あっ、たまごってかわいい」と思ったことから生まれたのです。たまごって味や栄養は抜群なのに、やる気なさそうな姿をしています よね。しかも目を合わさない。どこか頑張らない現代人に通ずるものを感じたのです。同時にヒヨコになれない運命に絶望しているようでもあり、それでいてどこか今を楽しんでいて……。たまごの気持ち、考えたことありますか？私の場合、こういったアイデアは突然わいてきます。けれども決して発想豊かなタイプではありません。むしろ逆。いつも何も思いつかずに苦しんでいます。奥村さんは私のことを「世の中の隅に目を向けている」と言ってくださいますが、自分では他の人と

© 2013, 2014 SANRIO CO.,LTD.

同じ土俵にいては負けるから、意識して〝隙間産業〟をやっているつもり。キャラクターはオリジナリティが命ですからね。レベルの高いアウトプットのためには、意識的なインプットも必要です。それこそ学割のある学生のうちは、いろんな土地を訪れてほしいですね。私もそうでしたが旅先で目にしたものは、必ず何かを生みだす際の糧になります。

女子美時代からの心がけをもうひとつ。それは「100パーセントやる」です。何に取り組んでも簡単には「100パーセントやった」とは言えませんよね。今でも常に「これが私の100パーセント?」と自問します。一度描いても日を置いて見直すし、納得いくまで手を入れます。思えば子どもの頃は描いてばかりで怒られていたのが今はずっと描いていられる。好きなことに没頭していられる。産みの苦しみはあっても、それこそがこの仕事の歓びですよね。

Amy（エイミー）
キャラクターデザイナー。株式会社サンリオ、キャラクタークリエイション室所属。2008年3月、女子美術大学付属高等学校を卒業。2012年3月、女子美術大学芸術学部メディアアート学科を卒業。同年4月、株式会社サンリオに入社。2013年、サンリオの「SHOW BY ROCK!!」の一部キャラクターや「ぐでたま」をデザイン。2014年、「サンリオキャラクター大賞」において「ぐでたま」で7位受賞。

『金髪の娘 Ragazza bionda』は
本学大村智理事長のご寄付をもとに、
女子美アートミュージアムに設置されました。

ジュリアーノ・ヴァンジ先生
『金髪の娘 Ragazza bionda』彫像除幕式

イタリアの彫刻家ジュリアーノ・ヴァンジ先生から、ブロンズ作品『金髪の娘 Ragazza bionda』が贈呈され、相模原キャンパスの女子美アートミュージアムで2014年4月24日、除幕式が行われました。

ヴァンジ先生が、本学を来訪され、実際に学生たちへの指導を行ってくださった時の女子美生をイメージし、今回新たに創作された貴重な作品です。

『金髪の娘』 "Ragazza bionda 2014"
制作年：2014年　素材：ブロンズ、ニッケル合金　サイズ：165×56.5×52.5cm

ジュリアーノ・ヴァンジ
彫刻家　女子美術大学名誉博士

1931年イタリア生まれ。フィレンツェ国立美術学校卒業。2002年に彫刻部門で高松宮殿下記念世界文化賞受賞。フィレンツェ『洗礼者ヨハネ像』、シエナ ポスティエルラ広場『雌オオカミ像』、パドヴァ大聖堂の十字架像、ピサ大聖堂の正餐台、バチカン美術館入口の彫刻などを制作。

あくまでも自分に忠実に、私なりの生活、仕事の態度を伝えていけたらいいですね。　イケムラレイコ

絵画、彫刻、ドローイングなどさまざまな表現手法を用いて人間の存在を根源的に問い続け、世界的に高く評価されているアーティストのイケムラレイコさんが、本学の客員教授に就任されました。　取材・文　土谷真喜子

このたび、女子美術大学とのご縁を得たことは、いろいろな偶然が重なったことと、大切な巡りあわせのおかげです。特に東日本大震災以降、日本との関係がとても自分にとって大事だということを改めて感じていました。学生のみなさんに対して伝えたいことは、前もって決めてはいません。とにかく「出会い」だと思う。あくまでも自分に忠実に、私なりの生活、仕事の態度を伝えていけたらいいですね。また政治、社会、歴史的なことにも目をむけて、それらを基準として、あとは個人個人の可能性や性格に応じて、興味の範囲を広げていく努力を応援したいと考えます。私のベルリン大学でのやり方は、もしかしたらこちらとは違うかもしれませんが、新鮮な気持ちで学生に対していきたいです。

私は今までいろいろな表現方法をつかって制作活動をしてきました。いつも、どこか、まだ自分の中で納得のいってない部分があるので、いろんな角度でアプローチしていくことが、人間としても、アートの中でも、学んでいくという面で非常に刺激的なところだと考えています。メディアというのは大事な道ですが、それだけに引きずられないようにしたいという気持ちもありますね。

これからも映像などにチャレンジしていきたいと思っています。ただ、あれもこれもではなく、適切な時期と内容がある。自分のやりたいこと、モチベーション、内容に、どのメディアが一番合っているのかをしっかり考えて、そこから発展させてしていくことが大事だと思います。

今年のヴァンジ美術館での展覧会は「うさぎ」をモチーフにしました。生きるものとしての動物は、最も人間に密接に関わり、太古から私たちに身近なテーマです。基本となるのは、我々の生きる命のこと。それを考えた時にシンボライズしたのがうさぎ。生きとし生けるものの厳しい葛藤の中で、環境の問題を意識しながらも情緒や詩的なものに託していきたいと思っています。

『White Sleep』　2010年

イケムラレイコ
アーティスト　ベルリン芸術大学教授

三重県生まれ。大阪外国語大学スペイン語科に在籍後、1972年よりスペインのセビリア美術大学に留学。ドイツのベルリンとケルンを拠点に絵画、彫刻、ドローイングなど多様な手法を用い創作活動を行っている。アウグスト・マッケ賞受賞。2014年ヴァンジ彫刻庭園美術館において個展「イケムラレイコ PIOON」を行う。

『Landung (Landing)』　1998-1999年

漫画家 萩尾望都 × 宇宙飛行士 山崎直子
杉並キャンパスで特別対談開催

7月21日、女子美オープンキャンパス2014の最終日に、本学客員教授でいらっしゃる萩尾望都先生と山崎直子先生の特別対談が行われました。萩尾先生は漫画家、山崎先生は宇宙飛行士として第一線で活躍されているプロ。どんなお話を伺えるのか、注目の的でした。そのためか事前予約は、申込締切日前に定員数満員に達し終了したほどです。

今回の対談のテーマは「宇宙・女性・漫画」。このテーマのもと、萩尾先生と山崎先生からはいろいろなエピソードがお話されました。なかでも萩尾先生の代表作のひとつ『11人いる!』と、山崎先生の宇宙飛行士の国内最終選抜でのエピソードが重なる話になると、会場は大盛り上がり。

山崎先生が、外界とのコンタクトを遮断された空間の中で最終選考に残った8名の宇宙飛行士候補生が試験官から与えられるさまざまな課題を、時には単独で、時には協力して行う試験の話をされたところ、すかさず萩尾先生が「あら、それってまさに!?」とコメント。山崎先生も萩尾先生のコメントに大きくうなずきながら「候補生の中にも作品を読んでいた人がいて盛り上がりました」とお話しされ、来場者の方々もおおいに共感していました。

対談終了後も熱気はさめやらず「萩尾先生と山崎先生お二人のお話を伺えて感動しました!」とお伝えしてくださる方も。また、山崎先生が話された"wonderful"を感じる心を持つ。になぞらえ「私も、もっとワンダーなことをたくさん探していけるようになりたいです」と話してくれる方もいらっしゃいました。

堀 文子先生寄贈「ホルトの木」植樹祭

2014年4月24日、神奈川県大磯の堀文子先生のアトリエにある「ホルトの木」の種から育った苗木が相模原キャンパスに植樹され、堀先生に感謝状が贈呈されました。

取材・文　土谷真喜子

堀先生は、七十歳半ばの時、大磯にあった自宅の向かいの屋敷の巨木「ホルトの木」を守るため保存運動を行いました。最終的には私財を投じ屋敷跡地を購入し、アトリエを構えています。植樹祭に出席された堀先生からお話を伺いました。

ホルトの木は、江戸時代に島津家から徳川家に贈られた樹齢五百年の巨木です。私はその木をとても尊敬していて、いつもその落ち葉をよろこんで掃いていました。イタリアから帰国した日に、主を失い売り地となった土地で、その木が切られようとしていました。私はその場をおさめて、1年くらい保存運動をしました。私は人間よりも植物や動物を尊敬しているので、なんとしても守りたいと思ったのです。しかしながら、世の中はバブルの時代で、大磯市からも諦めるように要請され、とうとう自分の貯金に銀行からの融資を足して、その土地を購入しました。そのお金は、絵を描き続けるために、自分で自分のパトロンになろうと思って貯めていたものでした。

だから私は、死ぬ前の日まで働かなければならないのです。でも悔いはありません。人間だけの地球じゃないということを守りたかった。人間中心になっている日本を私は悲しんでいます。草も木も鳥も昆虫も全部が地球に生きている権利がある。絵を描くような人はすべての命を大事にしてほしいと思います。

堀 文子

日本画家　女子美術大学名誉博士

1918年東京生まれ。1940年女子美術専門学校師範科日本画部卒業。1952年第2回上村松園賞受賞。1961年から約4年間エジプト・ギリシャ・ヨーロッパ・メキシコを旅する。1967年から神奈川県大磯に住み、そこで隣の家にあった樹齢500年ともいわれる「ホルトの木」に出会った。1999年には幻の花ブルーポピーを求めヒマラヤ山麓を取材旅行する。『ホルトの木の下で』(2009年 幻戯書房)他、画集・著書多数。

大村 智理事長による 佐倉市との協定に基づく特別講演会開催 「一化学者の世界の保健と福祉への貢献」

佐倉市との連携協働に関する協定に基づき、大村智理事長による特別講演会が、8月30日、佐倉市中央公民館ホールで開催されました。蕨和雄佐倉市長による大村理事長の紹介によりはじまり、佐倉市民カレッジ、コミュニティカレッジさくらの方々や女子美術大学同窓会千葉支部の方々など、330名が受講しました。「一化学者の世界の保健と福祉への貢献」とのテーマのもと、大村理事長が発見・開発に関わった「イベルメクチン」が、複数の熱帯病に対する予防・治療薬として使用され、世界で年間2億5千万人以上の人々を病魔から救っていること、「一期一会」を大切に強い信念をもって人生を切り開いてきたことなどが話されました。お話の最後には、「夢」「不動心」をもって「生ききる」との大村理事長の信条が語られ、会場から大きな拍手がおこっていました。

講演後に、佐倉市立美術館にて開催された千葉支部の方々との茶話会には、蕨市長も同席、和やかな懇談の場となりました。

海外インターンシップ in Milano マーラ・セルベット客員教授と ミラノを巡る

海外インターンシップ in Milanoは、10人の選抜された学生と本学客員教授であるマーラ・セルベット先生が主催するミリオーレ・セルベット事務所で、10日間のワークショップを開催。同時期に開催された世界最大の家具見本市ミラノ・サローネの視察を行いました。

ミラノ・サローネの開催期間中、街全体でライブや個展、さまざまなイベントが行われ、まるで街中がお祭り騒ぎ。見るもの全てが刺激的でエキサイティングな期間に、学生たちはワークショップで与えられた課題に取り組みながら、そのエレメントの調査やデザインのヒントを求めて、ミラノの街へと繰り出しました。また、ミラノにある美術館やブティックなど古い建物や街並の中に新しくデザインされた空間が広がり、歴史と現代が共存する魅力的な街で、学生たちは、貴重な時間を過ごすことができました。

インターンシップ期間中、ミリオーレ・セルベット事務所がデザインを手掛けたレジデンスで学生たちは共同生活。夜遅くまで課題のディスカッションを行ったり、食材を買い出しして全員で食卓を囲んだり、交流を深めていました。

なお、この取り組みは社会的・職業的に自立し、産業界のニーズに対応した人材の育成に向けた取り組みとして選定された、文科省の「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の支援を受けて実施したものです。

客員教授マーラ・セルベット先生が受賞

ADI・イタリア工業デザイン協会が選定するSpaces for objects of the Historical Collectionに、マーラ・セルベット先生企画のプロジェクトが選定、博物館コンペティション最優秀賞を受賞しました。同時に、マーラ・セルベット先生の作品『Slim and White Axolute Code』が、同協会主催のCompasso d'Oro・金のコンパス賞も受賞しました。

Joshibi Art Gallery から新たなる試み「上海 Love Story」

異国の地、中国・上海で作品制作の取材を試みるアート・プロジェクト――それが今回の「上海LoveStory画家・山本雄三編」。2013年に本格始動した女子美アートギャラリー上海は、本学教員や若手作家、招待作家を海外のアートシーンへ紹介する情報発信拠点として活動。そして今夏、新たなる試みを始めました。

「上海Love Story」とは、女子美術大学が「ジョシビ」らしく、まず自らが自分の眼と足で上海を体験し、上海を好きになることから中国との交流を深めようとの趣旨より命名されました。また、B級の恋愛ドラマのようなそのイメージは、現地でどのような出会いやハプニングが起きるか分からないという、このプロジェクトの予測不可能性も表現。「上海を」テーマにするというよりも、「上海で」考えたことを作品や研究に結びつけようとする作家らのドキュメンタリーを通して、アートの表現や考え方が立ち上がってくる現場を感じていただきたいと考えました。

今回の主人公は、画家で本学短期大学部准教授の山本雄三先生。写実的な絵画を得意とする山本先生が選んだテーマは「家族」。「家族愛は、世界共通」と考え、肖像画のモデルとなってくれる上海の家族を探しました。制作にあたり自分の気持ちを追い込むため、展覧会の出品作として制作することを決意。この企画ではWEBと連動し、山本先生が渡航準備を済ませ、上海の家族の家を訪問し、帰国後に作品を完成させて独立美術協会に出品するまでのドキュメントを一部ご紹介しています。

http://www.joshibi-art-gallery.jp

Joshibi Art Gallery
展覧会報告

工芸（刺繍・織・染）展

2014年5月24日[土]～6月22日[日]

本学デザイン・工芸学科工芸専攻の教員らによる工芸作品展覧会。
（岡田宣世教授、渡邊三奈子教授、荒姿寿助教、大﨑綾子講師、青谷徳子講師、相川恵講師）

第2回ドローイングコンペティション

2014年7月20日[日]～8月25日[月]

本学大学院生と研究生が専門的領域の研究と表現を探究しているその成果と、新たな可能性を紹介するコンペティションにおける受賞作品の展覧会。

展覧会予告

秋山さやか「もずのはや贄」

2014年10月25日[土]～11月16日[日]

本学大学院美術研究科修士課程修了した美術作家秋山さやか（広報誌JOSHIBI No.178表紙、巻頭インタビュー）による展覧会。

山本 雄三

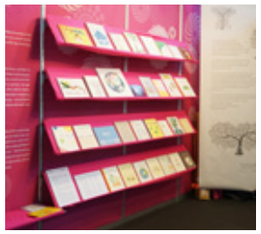
1964年鳥取県生まれ。1991年武蔵野美術大学大学院造形研究科油絵コース修了。2010年より女子美術大学短期大学部造形学科美術コース准教授。1998年独立展新人賞受賞。1999年独立展奨励賞受賞。2000年独立展独立賞受賞。2002年昭和会展日動火災賞受賞。2009年28回損保ジャパン美術財団選抜奨励展秀作賞受賞。2010年第8回前田寛治大賞展大賞受賞。 現在 独立美術協会会員。

ロンドンの日本文化・総合イベント「HYPER JAPAN」に女子美ブース出展

イギリス最大のクールジャパンイベントである「HYPER JAPAN」にアート・デザイン表現学科が中心となって女子美ブースを設営し、20名の学生が英語で自分の作品販売やワークショップ、パフォーマンスなどを行いました。今年で6回目となるこのイベントは、日本の伝統文化からファッション、ポップカルチャーに至るさまざまな日本文化を体感できるイギリス唯一の場として認知されており、7月25日から3日間ロンドンEarls Courtで開催され8万4千人が来場。今回の女子美出展にあたり特別に「HYPER GAKUENSAI」エリアが設けられ、初日から女子美ブースは注目を集めました。最も人気が高かったのは、「似顔絵コーナー」。メディア表現領域4年生が発案した漫画専用ペンとインクで漫画似顔絵を描くという企画です。似顔絵を描いて欲しい人が間断なく訪れ、最終日には総勢8名の体制で似顔絵を描き、美大生に備わった描く力が仕事になることが実証された出来事でした。「学生作品販売コーナー」ではヒーリング表現領域の可愛いキャラクターグッズやファッションテキスタイル表現領域のオリジナルTシャツなど女子美らしい個性豊かな作品が並び、舞台ではアートプロデュース表現領域の学生が日本舞踊をベースにしたパフォーマンスを披露し人気を博しました。参加した学生から「これまでにない経験ができて、自分の自信につながった」という声が多く寄せられ、アート・デザイン表現学科では、今後も世界に向けた新しいチャレンジを続けて行くそうです。

NEWS & TOPICS

01



日本の美大で初めて「ボローニャ国際絵本フェア」にブース出展

イタリア北部の古都、ボローニャで50年以上続く世界最大規模の児童書見本市「ボローニャ・ブックフェア」に、アート・デザイン表現学科が中心となり女子美ブースを設営、女子美生の作品を出品しました。メディア表現領域は、大日本印刷株式会社と本学学生が共同開発したiPadアプリケーションや、学生が制作したiPadゲームコンテンツを展示。ヒーリング表現領域は、在学生と卒業生あわせて32点の絵本を展示しました。また、ファッションテキスタイル表現領域からは大学院での研究成果を発表し、注目を集めました。女子美生が制作したイラストレーションや絵本、キャラクターデザイン、デジタルコンテンツに対して、出版や購入希望のオファーも多数寄せられました。

02

第2回「美術教育フォーラム」開催

8月25日、杉並キャンパスにおいて小・中・高等学校の美術科教員、本学の院生、学生等を対象とした第2回美術教育セミナー「鑑賞教育の充実をめざして」が終日開催されました。第一部では聖徳大学児童学部　奥村高明教授による「鑑賞のまなざし」をテーマとした基調講演が行われ、第二部の本学卒業生を中心としたパネリストらによるパネルディスカッションでは「鑑賞教育の充実のために」を統一テーマに、各自の鑑賞授業の実践例や研究例が提示され、参加者とも活発な意見交換が交わされました。

03

東京理科大学神楽坂キャンパスに「坊っちゃんの塔」設置

空間を埋め尽くす形＝空間充填形の元素のひとつである五面体「ペンタドロン」をモチーフに、数学者の秋山 仁教授（東京理科大教授）と平戸貢児教授（本学立体アート専攻）によって制作された、モニュメントが本学の協定校でもある東京理科大学の神楽坂キャンパスに設置されました。モニュメントの名称は、夏目漱石の小説『坊っちゃん』の主人公が東京物理学校（現東京理科大）を卒業した旧制中学校の数学教師であったことにちなみ「坊っちゃんの塔」と名づけられました。8月2日には、東京理科大学中根 滋理事長、藤嶋 昭学長、秋山 仁教授及び東京理科大学の卒業生でもある本学大村 智理事長、横山勝樹学長、平戸貢児教授らが出席、除幕式が行われました。

04

女子美術大学と沖縄県立芸術大学の「教育・学術交流に関する協定」2014年は沖縄で交流・作品展を開催

2012年、本学大学院美術研究科と沖縄県立芸術大学大学院において「教育・学術交流協定」を締結。調印式に併せて本学杉並キャンパスのガレリアニケにて両大学大学院生の作品展を開催しました。
そして今年は場所を沖縄に移し、本学大学院生23名、沖縄県立芸術大学大学院生26名が作品を出品し、作品展を開催。会期初日の9月12日には、本学芸術学部アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域南嶌 宏教授と、沖縄県立芸術大学美術工芸学部美術学科芸術学専攻土屋誠一准教授による特別対談「アートにおける都市とその辺境」も開催され、参加者は真剣に耳を傾けていました。交流展を通して、環境が大きく異なる学生同士で新たな刺激を受け、制作・研究意欲の向上、活動の広がりへとつながることが期待されます。

09 名誉博士 多田美波先生の追悼式を開催

3月20日に89歳で逝去された本学名誉博士の多田美波先生。女子美術専門学校を卒業後、彫刻家、照明デザイナーとして活躍され、1988年に紫綬褒章、1994年には勲四等宝冠章を受章されました。4月24日に本学で追悼式を開催し、相模原キャンパスに設置されている作品『張(Expansion)』に大村 智理事長と横山勝樹学長が献花し、ご冥福をお祈りしました。

08 平成26年度 女子美栄誉賞受賞者 李（イ） 張鳳（ザンボン）先生

昨年度、大村文子基金に創設された「女子美栄誉賞」の第2回受賞者として1939年女子美術専門学校師範科刺繍部卒業の李張鳳先生が選ばれました。先生は卒業後韓国・春川高等女学校手芸教師として刺繍技術を伝え、1961年以降は李張鳳研究所を設立。韓国と日本において個展や国際交流工芸展を通して現在も作品の発表を続けています。また、女子美術大学同窓会韓国支部長・顧問を務め、長年、韓国・日本の同窓生の交流に貢献してきました。本学の美術館に刺繍屏風≪梅≫を、歴史資料室に刺繍屏風≪ニケ≫や刺繍袱紗を寄贈し本学のコレクションや歴史資料の充実に寄与。これらの功績がこの度の授賞に結びつきました。

10 蜷川幸雄先生、名誉博士に

6月11日、杉並キャンパス110周年記念ホールにて、演出家蜷川幸雄先生の名誉博士号授与記念講演会・授与式が行われました。講演会「演劇の魅力」では、演劇の現場での蜷川幸雄先生の熱意ある姿勢、稽古場での風景、納得のいく舞台をつくるために良い俳優を育てていく演出家としての工夫や、コミュニケーション方法についてなど幅広くお話を展開。多くの人々を感動させる舞台を追求し続け、いきいきとお話される姿に、80名を超える女子美生たちは熱心に聴講。集まった教職員や関係者も大いに刺激を受けました。博士号授与式では、横山勝樹学長より博士号が授与され、小倉文子常務理事より記念品として前学長佐野ぬい先生の作品を、本学大学院生からは花束が贈呈され、稽古場では「鬼の蜷川」とも呼ばれる顔がほころんでいました。

05 女子美生の感性を訴求する就活メイクキットをプレゼン

2013年度よりデザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻 松本博子教授の指導のもと、株式会社ディーエイチシーとの産学連携に取り組んでいます。昨年、企画からデザインまで提案し、高評価を得た「メイク初心者のための就活メイクキット」を受け、今年DHCは就活生に無料配布する「メイクサンプル」を企画。今回は、学科・専攻を超えた3年生のプロジェクトチームを編成し、デザイン開発に取り組みました。まさに就活を控えた学生たちは「自分が欲しいと思う」魅力的なデザインを制作。学生達によるDHCデザイン部門の方々へのプレゼンでは、プロのアドバイスに学生たちは真剣に耳を傾け、貴重な体験となりました。

07 遊び心でポジティブな意識に女性視点のデザインを提案

今回で9回目を迎える「金の卵 オールスターデザインショーケース」で、選抜学生メンバーであるデザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻3年 松本華那さんがプレゼンテーションを行いました。松本さんは、授業課題作品として制作した「アニマル アルコールジェル」を、デザインが持つ可能性を必要としている人のためにもっと活用したいと提案。子どもを思いやるデザインに注目が集まっていました。

06 シャボンスカイスクレイパー、最優秀賞受賞

8月22日より開催された「2014新宿クリエーターズフェスタ」の学生アート/空間デザイン部門で女子美生有志による作品『新宿の森』が最優秀賞を受賞しました。デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻 代市成美さん、栗村祐衣さん、高橋 類さんの3名が「新宿コレクション」というテーマのもと制作したこの作品。新宿ならではの活気にあふれた景色をシャボン玉の泡で表現したことが高く評価されました。

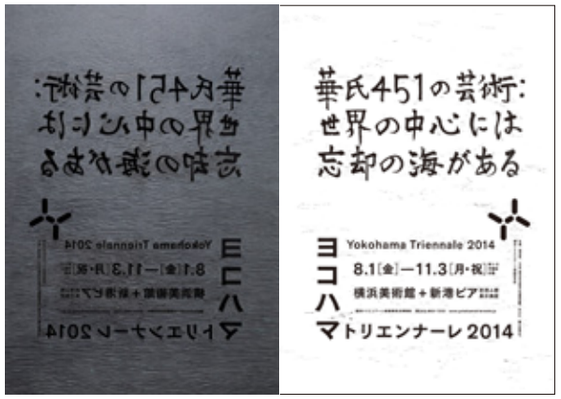
14

小松美羽さん『新・風土記』出雲大社に奉納

本学短期大学部を2004年に卒業後、銅版画家として活躍されている小松美羽さん。そんな小松さんが約1ヶ月間、出雲大社摂社の敷地の民家に滞在して制作された作品『新・風土記』が5月11日に出雲大社に奉納されました。日本の文化を世界へ発信する誓いの儀として奉納を決意したとのこと。中心となる赤い胎児の目の部分には星の形が浮かびあがるWISH UPON A STARという特殊なカットのダイヤモンドが埋め込まれています。このダイヤモンドは小松さん自身のお守りであり「作品が1000年先も残りますように」と願いをこめて埋め込んだもの。小松さんの今後のさらなる活躍から目が離せません。

11

女子美OG、「忘却の海」のポスターを制作



現在開催中のヨコハマトリエンナーレ2014。テーマ「華氏451の芸術：世界の中心には忘却の海がある」のもと、会場は「忘却巡り」の旅を体験する構成になっています。
この展覧会ポスターをハンコアーティスト、葛西絵里香さんが手掛けました。葛西さんは2003年女子美術大学短期大学部専攻科を修了、トリエンナーレにはリノリウムを用いた版と版画作品で作家としても参加しています。

16

マスコットキャラクター誕生プロジェクトで優秀賞受賞

プロダクトデザイン専攻4年 渡邊百合さんが “相模原市制施行60周年記念事業 マスコットキャラクター募集”で優秀賞を受賞されました。渡邊さんが生み出した「はやぶさ丸」は淵野辺にあるJAXAが開発した小惑星探査機「はやぶさ」と、2037年に橋本に開通予定のリニア中央新幹線のふたつの要素を取り込んだキャラクター。「これからどんどん発展していく相模原市がもっと元気になるように！という気持ちを込めました」と渡邊さん。今回の応募は渡邊さんにとってキャラクター制作というものを改めて知る良い機会になったようです。

15

「TEDDY for you！」ポストイットで可愛いテディベアを！

4月下旬、東京ビッグサイトにてアジア最大級の手作りホビーショーが開催され、ヒーリング表現領域の女子美生たちがポストイットを使ったモザイクアートに挑戦しました。テーマは「TEDDY for you！」。ホビーショーのテーマ「Handmade Party！」に加え「癒し」や「ホビー」のイメージにつながるような「テディベア（クマ）」を表現しました。「可愛いテディベアとともに楽しい思い出を届けたい」。そんな女子美生の思いが込められた今回のモザイクアートは、幅4m×高さ2mの壁面に、住友スリーエム株式会社のポスト・イット®を使って制作されました。期間中毎日変化するテディベアの様子と、完成後の可愛らしい姿は来場者の方々の注目を集めました。

13

ポスターデザインで輝く四季折々の草花を「召し上がれ」

11月14日から16日まで横浜で開催される公益社団法人日本フラワーデザイナー協会「日本フラワーデザイン大賞2014」。今年はポスターコンペを初めて学生から公募する形式で行い、ヴィジュアルデザイン専攻3年の真崎琴実さんの作品が見事選ばれました。作品タイトルは「召し上がれ」という意味を持つ「Bonappetit！」。コンテストのテーマ「花の響き」からさまざまなイメージを膨らませ、料理に見立てたフラワーデザインをポスターに表現しました。

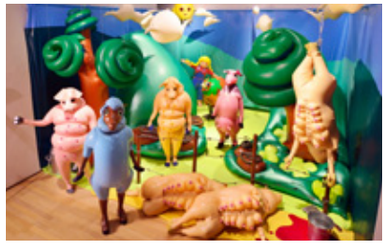
12

服で人を幸せにしたい新しいアイデアを実現するために起業

修士課程デザイン専攻ファッションテキスタイル研究領域を2014年に修了した横井理子さんの事業プラン「ふくてがみ-想いのこもった服で人を幸せに-」が平成25年度学生起業家選手権優秀賞を受賞しました。現在、慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科博士課程に在籍、6月には「FUKU Lab.-ふくらぶ-」を設立しました。横井さんの今後の活躍に期待が高まります。

22 刺繍を志す女子美生たちへ 福田喜重先生　特別講義

6月10日、相模原キャンパスで行われた福田喜重先生の刺繍の特別講義。重要無形文化財保持者である福田先生に、当初はやや緊張した面持ちで臨んでいた女子美生たちでしたが、刺繍への想いを語る先生に徐々に打ち解けた様子になりました。厳しさのなかにも、刺繍を志す学生たちに自身が培ってきたものを教えたいという思いが伝わってくる言葉の数々に、女子美生たちは目を輝かせて聴きいっていました。講義の終盤では、福田先生自らが相良繍（さがらぬい）の実演を。刺繍台のまわりには学生たちが詰め掛け、会場の熱気は最高潮に達し特別講義は終了しました。



21 新進気鋭のアーティスト 第17回岡本太郎現代芸術賞 岡本敏子賞を受賞

2014年で17回目を迎えた「岡本太郎現代芸術賞」。応募数780点の中から審査員を驚かす作品6点が受賞し、本学OGのアーティスト、サエボーグさんの作品『Slaughterhouse-9』が見事「岡本敏子賞」に輝きました。ラバーインフラッタブル構造でアニマルスーツを制作、さまざまなパフォーマンスを展開しイベント等でも精力的に活動しているサエボーグさん。7月下旬のオープンキャンパスでは相模原キャンパスの卒業生公開インタビューで講演を行い、貴重なお話を伺いました。

18 「美しい村プロジェクト」 北塩原村の記念ロゴをデザイン

メディア表現領域4年の松佐川水鳥（みどり）さんが、福島県北塩原村の村制施行60周年を記念したロゴをデザインしました。1980年代にフランスから始まった「最も美しい村」運動。その運動に範をとり日本でも「日本で最も美しい村」連合が発足し、北塩原村は参加しています。本学もこの連合をアートやデザインによる地域づくりでサポートする「美しい村プロジェクト」を立ち上げていることから、松佐川さんがデザインを担当しました。

17 アジア高校生 アートアワード2014 授賞式を杉並キャンパスで開催

9月14日、日本、韓国、中国の高校生によるアート作品のコンペティション「アジア高校生アワード2014」の授賞式が行われました。このコンペティションは未来のアジア発の若手芸術家を育成し、国際交流を促進することを目的に開催、今回で2回目となります。3ヶ国の高校生が応募した絵画、鉛筆デッサン、デザインの3部門合計1387点の中から各賞を決定。授賞式には大賞受賞者3名の他に金賞受賞者5名が出席。共催の誠心女子大学校（韓国）と広州美術学院（中国）からも多くの先生方が式に参列されました。入賞作品は、3ヶ国巡回展で展示されます。

24 【好き】は【力】！ 女子美webに新しいサイトが誕生

【好き】は【力】をテーマに、さまざまな業種分野で活躍中の卒業生の方々によるインタビューやメッセージを中心に構成されたスペシャルサイトが、本学HPに新たに設置されました。自分の【好き】を続けることが、生き抜く【力】になっていること。そして【力】の源は女子美で培われたことを伝えたい、と制作したものです。ぜひご覧ください。
女子美OGスペシャルサイト【好き】は【力】
http://www.joshibi.ac.jp/suki-chikara/

23 忠地裕子監督 「おとなのかがく」公開！

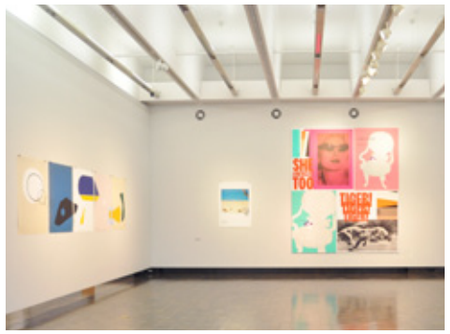
本学短期大学部の卒業生、忠地裕子さんが監督をされたドキュメンタリー映画「おとなのかがく」が5月3日から東京 渋谷ユーロスペースで公開されました。この映画は「大人の科学マガジン」創刊以来、ふろくのプロトタイプを作り続けてきた「試作屋」の技の軌跡をたどった作品です。オランダのアーティストが創った風の力で動く巨大彫刻を、その動きも忠実にミニチュア化するプロジェクトに、世界のプロの技術者達が互いの技術を駆使して挑む様子を丹念に丁寧に追っています。発見が満ち溢れている刺激的な作品。上映についての詳細は公式HPでご覧ください。
http://otonano-kagaku.jp/

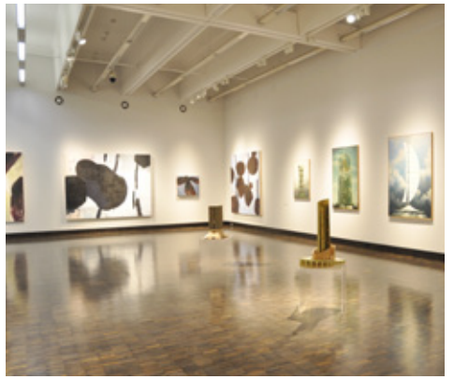
20 女子美×東工大 ペリパトス・オープンギャラリー 作品入れ替え

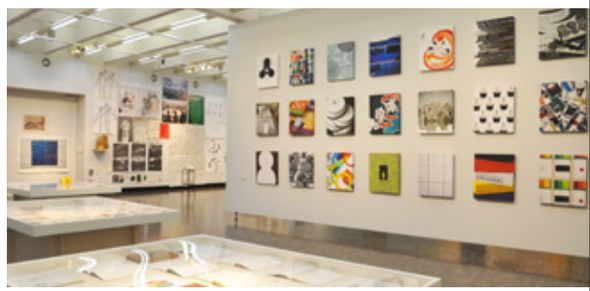
2013年、本学大学院美術研究科と東京工業大学院総合理工学研究科との連携・協力に関する協定締結に伴い、東京工業大学すずかけ台キャンパスのペリパトス・オープンギャラリーには女子美の卒業生と修了生による作品が展示されています。アートを通して女子美術大学と東京工業大学、両大学の絆を深め、教育研究活動の一層の充実、質の向上、学術の発展と有為な人材の育成を目指すこのギャラリー。2013年3月の初回展示に続き、2014年4月18日には絵画作品10点、オブジェ作品13点が入れ替えられ、19名の出品者の中から5名が、若手アーティストを奨励するために設けられた学長賞や研究科長賞などを受賞しました。

19 2020年開催、 東京オリンピックへ向けて

2013年9月に東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定したことを受け、一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、全国にある大学の資源を活用し、オリンピック教育の推進や大会機運の醸成等の取り組みを進めることを決定。女子美も協定参加を表明、6月23日に早稲田大学大隈記念講堂で開催された大学連携協定締結式に出席しました。







女子美術大学デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻専任教員作品展

JAM 展覧会報告　PICK UP

2014/6/18(水) → 8/3(日)

当館では、芸術学部デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻主催の展覧会「11+」を開催致しました。本展のタイトル「11+」には、11名の専任教員、客員教授2名、その他の様々な要素が加わり、本専攻が目指す「次世代のヴィジュアルコミュニケーション」の未来図を明示するとの意味が込められています。

本展の出品者は、各々が多彩なジャンルで活躍するとともに、日頃の研究を元に、表現手段の多様化という時代のニーズに応えて、様々な授業を展開している先生方です。会期中には、一般入試（A日程）の選択実技のひとつである「視覚表現」を模擬体験できるワークショップも開催され、教育的意義の大きい展覧会となりました。

＜出品者＞
仲條正義、奥村靫正、井上悦治、茅野義博、野又 穫、浅野晃成、林 規章、能見英子、立花文穂、村田朋泰、粟辻美早、長崎訓子（敬称略）

展覧会報告

JAM

高田喜佐　ザ・シューズ展

4/6(日) → 6/8(日)

シューズデザイナーの草分け、高田喜佐の41年間の軌跡を約700足の靴で紹介しました。レディー・ガガの靴を作った新進気鋭のアーティスト舘鼻則孝氏と（株）キサ代表の高田邦雄氏のトークイベントを開催、好評を博しました。

女子美染織コレクション展Part4 生命の樹 ―再生するいのち―

9/6(土) → 10/19(日)

生命の樹は、古来より世界の各地域でその文化や民族を象徴するモチーフとして好まれました。本展では、生命の樹が描かれたインドの更紗、エジプトのコプト裂、日本の小袖などの染織品約70点を展示しました。

女子美ガレリアニケ

羽山まり子展 -Synchronicity-

4/6(日) → 5/9(金)

※4月20日（日）特別開廊

本学出身の若手現代作家である羽山まり子による個展。会場全体を用いたインスタレーション作品を紹介しました。

「自由選択で作る自分だけのカリキュラム」 女子美術大学短期大学部 1年前期 基礎造形展

7/4(金) → 8/6(水)　※7月20日（日）7月21日（月）特別開廊

本学短期大学部1年前期の基礎造形18講座で制作された学生作品を展示しました。

女子美術大学美術館収蔵名品展 珠玉の函へ

5/23(金) → 6/25(水)

本学美術館収蔵品の中から、女子美出身の著名作家による多彩な作品を18点展示しました。

女子美術大学所蔵　弘道軒清朝体活字の世界

9/12(金) → 10/8(水)　※9月14日（日）特別開廊

本学所蔵「弘道軒清朝体活字関連資料」の調査研究報告として、活字やデジタル資料の展示を行いました。

歴史資料展示室

横井玉子・藤田文蔵と私立女子美術学校創立展

4/4(金) → 7/21(月・祝)

明治33年（1900）に本学創立を成し遂げた教育者の横井玉子と彫刻家で教育者の藤田文蔵の生涯と功績を歴史資料や作品を通じて紹介しました。

展覧会予告

JAM

10/23(木) → 11/16(日)

造形さがみ 風っ子展

毎年恒例の相模原市教育委員会主催による小中学生の作品展です。今年は会期を延長し、地域の皆様にもじっくり鑑賞いただける展覧会とします。

1/7(水) → 2/2(月)

平成26年度 退職教員記念展

平成26年度定年退職される実技系教員による展覧会です。

歴史資料展示室

9/4(木) → 3/15(日)

休室日：火・日・祝日、12月27日～1月6日　※9月14日、10月26日、3月15日特別開室

平成26年度収蔵資料展　収蔵資料にみる女子美の歩み

収蔵資料により本学の歴史を紹介します。本展では、昭和24年（1949）新制大学「女子美術大学」発足時より1960年代までの資料を中心に展示します。

女子美ガレリアニケ

10/17(金) → 11/5(水)

※10月26日（日）特別開廊

女子美スピリッツ2014 -金山桂子展-

本学を卒業し名誉教授である金山桂子先生の作品を10余点展示します。現代洋画壇の第一線で活躍する金山先生のガラス作品を中心に、郷里瀬戸内の風景画などもご紹介します。

11/14(金) → 11/26(水)

女子美術大学・長岡造形大学・東京工芸大学・多摩美術大学・中国伝媒大学
五大学合同写真展　○展

本学をはじめ、長岡造形大学・東京工芸大学・多摩美術大学・中国伝媒大学、五つの大学でそれぞれに写真を学ぶ学生と教員の写真作品をご紹介します。

12/5(金) → 12/17(水)

ポスターにできること。 女子美術大学×電通 人権ポスター学生作品展

株式会社電通と美術大学のコラボレーション企画「人権アートプロジェクト2014」に参加した本学学生のポスター作品を展示します。

© 2013, 2014 SANRIO CO.,LTD.

女子美術大学広報誌

発　　行　学校法人女子美術大学
〒166-8538
東京都杉並区和田1-49-8
企画・編集　総務企画部広報グループ
監修担当　浅野正博・林規章
デザイン協力　株式会社 Kitchen Sink.
印　　刷　株式会社 ヒーローズ
発 行 日　2014年10月20日

©2014 学校法人女子美術大学

広報グループでは女子美のニュースを募集しています。お気軽に下記までお知らせください。また、本誌の定期購読をご希望の方はお送り先を広報グループまでご連絡ください。

広報グループ
TEL 042-778-6123
E-mail prs@venus.joshibi.jp
URL http://www.joshibi.ac.jp